



教育課程管理の根本 – 「次期」を見据えて–

- ◆ 「論点整理」から浮かび上がる次期学習指導要領の特色のうち、特に注目しているのが、より柔軟な教育課程の編成・実施です。
- ◆ 「調整授業時数制度」の創設・運用に伴い、学校の裁量は大幅に拡大します。同時に、教育課程管理の徹底が従来に増して必要になります。
※「調整授業時数制度」…「源流」第278号参照
- ◆ 教育課程管理の根本は、日々の授業を通じた学習指導要領の内容項目の履行です。
- ◆ 教育課程管理の主体は、指導者である教師です。管理職には、各教師の管理能力を高めるとともに、履行状況を把握し、必要に応じて指導・助言を行える仕組みづくりが求められます。
- ◆ 羽村市の全小・中学校には、既にその仕組みがあります。各教師が週ごとの指導計画を立てる際、教育委員会が配布した学習指導要領の「一覧表」を用いて、当該授業で扱う内容項目の記号を記載するとともに、「一覧表」にチェックを入れ、人事考課の面接等でチェック入りの「一覧表」を提示して管理職と共有する仕組みです。
※週ごとの指導計画を用いた取組…「源流」第32号参照
- ◆ 「教科書を教える授業」から「教科書を用いて学習指導要領に示された資質・能力を育む授業」への転換も、この仕組みを生かすことで実現します。



自分の心とじっくり向き合う

くんし きょう あらせ ぐん どう
君子は矜にして争わず、群して党せず。

(訳) 君子は自分に対して厳しいが、人と争うことはなく、多くの人と親しみとおむことができるが、自分たちだけの偏った仲間作りはしない。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）